

授業科目(ナンバリング)	コリア語ⅠA (AC117)			担当教員	※宋 映沃		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	1 年・前期	必修・選択	選択
授 業 の ね ら い							アクティブ・ラーニングの類型
本科目は、「基礎的なコリア語でのコミュニケーション能力の修得」及び「韓国社会や文化の理解」を授業の目標とする。具体的には、課題レポートや小テストを通して、ハングル文字の仕組みや構造を学び、読み書きができること、簡単な日常会話の聞き取りや話すことができることである。							②⑨⑪
ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標					評価手段・方法	評価比率
専門力	韓国社会や文化の理解に積極的に取り組み、異文化コミュニケーションをとることができる。					定期試験	10%
情報収集、分析力							
コミュニケーション力	ハングル文字を正しく理解し、読み書きができる。 簡単な挨拶ができる。					定期試験 小テスト	30% 20%
協働・課題解決力							
多様性理解力	韓国語や韓国文化について違いを理解し、積極的関心を持ち、その多様性について説明することができる。					課題レポート	40%
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
◎定期試験（穴埋め式、リスニング、筆記式等：40%） ・ハングル文字の仕組みや構造を理解し、読み書きができるかを評価 ・日常会話での簡単な挨拶が聞き取れるかを評価 ◎小テスト（8 回目に 30 分程度：20%） ・簡単なクイズ形式で授業中に習った単語や表現の習得度を評価（フィードバックは、授業中に適宜行う） ◎課題レポート（40%） ・韓国文化にふれあい、その感想文を書く（フィードバックは、授業中に適宜行う）							
授 業 の 概 要							
基礎的なコリア語でのコミュニケーション能力の修得及び韓国社会や文化の理解のため、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」を軸に学んでいく。韓国社会や文化を体験できるように工夫し、楽しく、身近に感じられる授業にしていく。この授業の1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：新装版 「できる韓国語 初級」 著/新大久保語学院 李 志暎 参考書：できる韓国語 初級/ワークブック、できる韓国語Ⅰ・Ⅱ会話トレーニング 指定図書：新装版 「できる韓国語 初級」 著/新大久保語学院 李 志暎							
授業外における学修及び学生に期待すること							
ハングルという未知なる世界との知的な遭遇に必要なのは「チャレンジ精神」のみである。受け身的な態度ではなく、積極的な姿勢が求められる。韓国や韓国文化に興味を持ち、自分なりにスクラップや重要な部分をチェックしておくことが大事である。理解の難しい事項については、気軽に教員に声をかけていただきたい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	ガイダンス	シラバスを中心に、本授業に対する全体的な説明を行う。当授業全体の要旨、授業の進め方、教科書、評価の方法等について概説する。	シラバスを用い、授業の要旨、目標など確認する。授業の振り返り。
2	母音字	まず、ハングルの創製の理由、背景等ハングルを誰が何のために作ったかを説明し、本格的に 10 の母音字を習得する。	授業で習ったハングル文字を復習し、3 回目の授業範囲を予習する。
3	子音字 1	英語のアルファベットのような、それぞれの固有の発音を持っているハングルの子音字を中心に書く、発音の練習を行う。	授業で習ったハングル発音を復習し、4 回目の授業範囲を予習する。
4	子音字 2	特に、発音に有意しながら前回に続き、ハングルの子音字を習得する。初めて全体的な母音字と子音字を組み合わせる練習を行う。	授業で習ったハングル発音を復習し、5 回目の授業範囲を予習する。
5	ハングル表	ハングルの中には平音に対比する激音という体系が存在する。それを習得した上、濃音の構造と発音の練習を行う。	授業で習った文字を復習し、6 回目の授業範囲を予習する。
6	合成母音字 1	10 個の基本母音文字を組み合わせた、合成母音字を習得する。合成母音を単母音と区別しながら発音の練習を行う。	授業で習った合成母音を復習し、全体の文字をもう一度学習する。
7	合成母音字 2	10 個の基本母音文字を組み合わせた、合成母音字を応用し語彙の練習を行う。	授業で習った合成母音を復習し、全体の文字をもう一度学習する。
8	小テスト、復習	これまでの復習、および小テストを実施する。	今まで習った母音字、子音字、合成母音を復習し、小テストに臨む。
9	韓国の文化 1	韓国の文化を楽しもうー1	韓国の若者文化に触れながら、ハングルの発音を復習する。
10	韓国の文化 2	韓国の文化を楽しもうー2	韓国人の日常生活が窺える映画を用い、日常会話を復習する。
11	パッチム	文字の構成もどんどん複雑になり、難しく感じる学生が多くなる時期。ここで諦めたら今までの努力が台無し。ハングル独特な仕組みのパッチム（終声字）というのをマスターしよう。	授業で習った文字を復習し、12 回目の授業範囲を予習する。
12	2 つのパッチム	前回勉強したパッチムの中には 2 つのパッチムが存在する。特に、発音の場所が大事になるので、それができるまで何度も練習しよう。	授業で習った文字を復習し、全体の文字をもう 1 度学習する。
13	発音変化 1	ハングル文字の発音変化をクリアする。	授業で習った部分を復習し、14 回目の授業範囲を予習する。
14	発音変化 2	ハングル文字の発音変化をクリアする。	授業で習った部分を復習し、15 回目の授業範囲を予習する。
15	発音変化 3	残りの発音変化をクリアする。	授業で習った部分を復習し、自然な発音に慣れる。定期試験の準備学習。
16	定期試験	定期試験を実施する。	今まで習った内容をレビューし、定期試験に備える。

授業科目(ナンバリング)	コリア語ⅠA (AC117)			担当教員	※金キャロライン美熙		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	1 年・前期	必修・選択	選択
授 業 の ね ら い							アクティブ・ラーニングの類型
本授業では韓国語の初級レベルからコリア語でのコミュニケーション能力の修得と韓国社会や文化の理解を体系的に学んでいくことを目的とする。韓国語（ハングル）の文字の仕組みや構造を学び、読み書きができるようになり、簡単な日常会話の聞き取りや話すことができることである。また、様々な視聴覚資料を用い、韓国文化に触れながら、楽しくコリア語を身につけていく。							②⑥⑨⑩
ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標				評価手段・方法		評価比率
専門力	・ハングルを読む、書くことができる。 ・簡単な文型と単語を使用して文章を作ることができる。				定期試験 中間試験		10% 10%
情報収集、分析力							
コミュニケーション力	・学習した内容を応用して、簡単な会話、読解や作文ができる ・簡単な挨拶や基礎的な日常会話ができる。				定期試験 中間試験		30% 20%
協働・課題解決力							
多様性理解力	・韓国の言語や文化を理解することができる。				課題レポート 小テスト		10% 20%
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
・評価は、定期試験の結果 40%、中間試験の結果 30%、課題・小テスト 20%、課題レポート 10%とする。（オンラインで授業を行う場合、評価法を変更する可能性がある。） ・9回目の授業は中間試験を行う。 ・中間試験、定期試験では文字の仕組みや、読み書き、日常会話での簡単な挨拶能力などの 総合的に評価する。 ・小テスト、課題、中間試験の結果については後日の授業でフィードバックを行う。 ・基本的に各科の学習目標を達成した上で、小テストや課題がある。 ※授業計画（シラバス）に沿って授業を進行するのが原則であるが、学習者の理解度・実態により授業の進度を担当教員の判断の下、変更する場合もある。							
授 業 の 概 要							
本授業は入門クラスで、ハングル文字の読み書き、発音の練習、基礎語彙、基礎文法を総合的に行う。毎回の授業は教科書の内容に従って進める。授業中は韓国に関連するDVD・スライドなど活用し、韓国文化に直・間接的に触れる機会を設けて楽しく、身近に感じられる授業にしていく。標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：新装版 「できる韓国語 初級Ⅰ」 著/新大久保語学院 李 志暎 参考書：できる韓国語 初級/ワークブック、できる韓国語Ⅰ・Ⅱ会話トレーニング 指定図書：新装版 「できる韓国語 初級」 著/新大久保語学院 李 志暎							
授業外における学修及び学生に期待すること							
・授業時間だけの学びではなく、常に韓国に興味をもち、自ら学ぼうとする姿勢をつけてもらいたい。 ・授業中におけるペアー・グループでの発音の練習と会話練習に積極的に参加すること ・学習を効果的なものにするため、教科書、ノート、筆記用具、辞書を忘れずに持参し、活用すること ・課題の提出は締め切り厳守 ・理解の難しい事項については、気軽に教員に声をかけていただきたい。(carolinekim930@gmail.com)							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	ガイダンスおよび基本挨拶	ガイダンスおよび基本挨拶 シラバスを中心に、本授業に対する全体的な説明を行う。また、授業中で使用する基本的な韓国語の挨拶について練習する。	予：配布プリントを確認。 復：授業内容を確認する。
2	Lesson01：韓国語とは？ Lesson02：基本母音	文字編（1） 基本母音について学ぶ。	予：授業範囲を読んてくる。 復：授業内容を確認する。
3	Lesson03：子音(平音)	文字編（2） 基本子音について学ぶ。	予：授業範囲を読んてくる。 復：授業内容を確認する。
4	Lesson04：子音(激音)	文字編（2） 基本子音の激音について学ぶ。	予：授業範囲を読んてくる。 復：授業内容を確認する。
5	Lesson05：子音(濃音)	文字編（2） 基本子音の濃音について学ぶ。	予：授業範囲を読んてくる。 復：授業内容を確認する。
6	Lesson06-1：パッチム	文字編（3） パッチムについて学ぶ。	予：授業範囲を読んてくる。 復：授業内容を確認する。
7	Lesson06-2：パッチム	文字編（3） 二文字パッチムについて学ぶ。	予：授業範囲を読んてくる。 復：授業内容を確認する。
8	まとめ	子音からパッチムまでのまとめ	予：授業範囲を読んてくる。 復：授業内容を確認する。
9	中間試験 韓国の文化 1	テスト・韓国の文化を楽しもう（K-POP） ーK-POP 音楽を用いたハングルの活用	予：試験準備及び好きな韓国の歌を選んてくる。 復：授業内容を確認する
10	Lesson07-1：合成母音	複合母音について学ぶ。	予：授業範囲を読んてくる。 復：授業内容を確認する。
11	Lesson07-2：合成母音	複合母音について学ぶ。	予：授業範囲を読んてくる。 復：授業内容を確認する
12	発音変化 1	ハングル文字の発音変化を学習する。	予： 授業範囲を読む 復： 授業内容を確認する
13	発音変化 2 および	残りの発音変化を学習する。	予：授業範囲を読んてくる。 復：授業内容を確認する
14	文法	Lesson08：韓国語の文体について学ぶ。 Lesson09：名詞입니다(～です)を学ぶ。	予：授業範囲を読んてくる。 復：授業内容を確認する
15	授業内容のまとめ 韓国の文化 1	定期試験に関してレビューする。 韓国の文化を楽しもう（K-DRAMA） ードラマのセリフを用い文章の活用	予：好きなドラマを選んてくる。 復：授業内容を確認する
16	定期試験	定期試験を実施する。	今まで習った内容をレビューし、定期試験に備える。

授業科目(ナンバリング)	コリア語ⅠA (AC117)			担当教員	※権 容善		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	1年・前期	必修・選択	選択
授 業 の ね ら い							アクティブ・ラーニングの類型
本科目は、韓国語の基礎を学習する。韓国語の文字の理解および簡単なコミュニケーションができ、韓国の文化についても触れることを授業の目標とする。具体的には、韓国語（ハングル）の文字の仕組みや構造を学び、読み書きができるようになる。また、様々な視聴覚資料を用い、韓国文化に触れながら、楽しくコリア語を身につけていく。さらに、将来の仕事に役に立つ韓国語の会話を学習する。							②⑨⑪
ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標				評価手段・方法		評価比率
専門力	・ハングルを読む、書くことができる。 ・単語を使用することができる				定期試験		20%
情報収集、分析力							
コミュニケーション力	・ハングルを使用した簡単コミュニケーションをことができる ・簡単な日常会話をペアで行うことができる。				小テスト 授業態度 定期試験		20% 10% 20%
協働・課題解決力							
多様性理解力	韓国の文化を理解することができる。				課題レポート 定期試験		20% 10%
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
定期試験（50％）では、ハングルの読み書きができるかを確認し、簡単な単語についての理解できているか、また、コミュニケーション能力と多様性について理解しているかを確認する。小テスト（20％）は、2回の筆記式（10％）、1回の会話式（10％）で評価を行う。また、課題レポートは、韓国の文化について調べて、発表することで評価をする。具体的な課題の内容については、授業中に説明を行う。また、必要に応じて、授業内でフィードバックを行う。なお、不適切な授業態度（教科書を持参しない、遅刻、私語、携帯電話等の使用、居眠り等）は、発覚した場合に減点の対象となる。							
授 業 の 概 要							
本授業は、韓国語の基礎を学習することを目的としながら、韓国文化への理解、韓国語の文字であるハングルの修得から丁寧に指導する。まずは、「読む」、「書く」の練習からスタートし、今後の仕事にも活用できる簡単な会話を学習する。授業中は韓国に関連するDVD・スライドなど活用し、韓国文化に直・間接的に触れる機会を設ける。また、将来、仕事に役に立つ韓国語を学習する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：新装版 「できる韓国語 初級Ⅰ」 著/新大久保語学院 李 志暎 参考書：できる韓国語 初級/ワークブック、できる韓国語Ⅰ・Ⅱ会話トレーニング 指定図書：新装版 「できる韓国語 初級」 著/新大久保語学院 李 志暎							
授業外における学修及び学生に期待すること							
韓国語の授業では、積極的な姿勢が求められる。今まで、触れたことがない方が多いと予測されるが、まずは、積極的に取り組み、韓国語や韓国文化に興味を持つことが大事である。また、理解の難しい事項については、気軽に教員に声をかけていただきたい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	ガイダンスおよび基本挨拶	シラバスを中心に、本授業に対する全体的な説明を行う。また、授業中で使用する基本的な韓国語の挨拶について練習する。	予：配布プリントを確認 復：授業内容を振り返る。
2	基本母音	1. ハングルの創製の理由と、科学的な構造について学習する。2. 10 個の基本母音について習得する。また、授業中で使用する基本的な韓国語の挨拶について練習する。	予：授業で指定した内容を調べてくる。教 8-9p 復：基本母音を活用した 5 個の単語を覚える。
3	基本子音 1	英語のアルファベットのような、それぞれの固有の発音を持っているハングルの子音字を中心に書く、発音の練習を行う。また、授業中学習した文字を活用し、5 個の単語を覚える。	予：教 10-9p 復：授業中の課題を完成し てくる。
4	基本子音 2	1. 発音に有意しながら前回に続き、ハングルの子音字を習得する。初めて全体的な母音字と子音字を組み合わせ て練習を行う。また、自分の名前を韓国語で書き、覚 える。	予：教 15-16p 復：友たちの名前を 5 名ま で韓国語で作成してくる。
5	ハングル表	1. ハングルの中には平音に対比する激音という体系が 存在する。それを習得した上、濃音の構造と発音の練習 を行う。2. あいさつ①	予：教 17-19p、36-37 復：授業中提示した課題を してくる。
6	韓国の文化 1	韓国の文化を楽しもう-1	予：好きな韓国の歌を選ん でくる。 復：韓国の文化について、 まとめる。
7	合成母音字 1	1. 10 個の基本母音文字を組み合わせた、合成母音字 を習得する。合成母音を単母音と区別しながら発音の練 習を行う。2. あいさつ②	予：教 8-9p、教：36-38 復：授業で習った合成母音 を復習し、全体の文字をも う一度学習する。
8	小テスト	ハングルの文字およびこれまで学習した部分について、 小テストを実施する。	予：小テストを準備する。 今まで習った母音字、子音 字、合成母音を復習し、小 テストに臨む。
9	合成母音字 2	1. 10 個の基本母音文字を組み合わせた、合成母音字 を応用し語彙の練習を行う。 2. 第 1 課 저는일본사람 입니다①	予：教 40-41p、 復：授業で習った合成母音 を復習し、全体の文字をも う一度学習する。
10	パッチム	1. 文字の構成もどんどん複雑になり、難しく感じる学 生が多くなる時期。復習しながら、ハングル独特な仕組 みのパッチム（終声字）というのをマスターしよう。 2. 第 1 課 저는일본사람 입니다②	予：教 20-23p、42-43p 復：授業内容を確認する。
11	2 つのパッチム	1. 前回勉強したパッチムの中には 2 つのパッチムが存 在する。特に、発音の場所が大事になるので、それがで きるまで何度も練習しよう。 2. k -Pop 音楽を用いたハングルの活用①	予：授業範囲を読む 復：授業内容を確認する。
12	韓国の文化 2	韓国の文化を楽しもう-2	予：授業範囲を読む 復：授業内容を確認する。
13	自己紹介	文字から離れて、簡単な自己紹介を作成し、練習する。	予：授業範囲を読む 復：授業内容を確認する
14	発音変化 1	ハングル文字の発音変化を学習する。	予：授業範囲を読む 復：授業内容を確認する
15	発音変化 2 および 小テスト	残りの発音変化を学習する。また、13 回に学んだ自己紹 介をみんなの前で発表する。	授業で習った部分を復習 し、自然な発音に慣れる。
16	定期試験	定期試験を実施する。	今まで習った内容をレビ ューし、定期試験に備え る。